



六中だより

～学校教育目標～
“学力と情操”
“健康と忍耐力”
“勤労と責任”

「穴を深く掘るには幅がいる」

校長 佐藤 光宏

中学生時代に学ばなければいけない大切なことのひとつに、自身のこれからの生き方を考えるということがあります。自分が目指すべき職業、あるいはそのヒントを見つけることも、その中に含まれます。

ところで、日本経済団体連合会の会長をされた土光敏夫(1896-1988)さんを知っていますか。土光さんは石川島播磨重工業や東芝の社長を務めている頃も、朝は誰よりも早く出勤したり、足しげく出先の小さな工場などを回って社員を元気づけたりするなどして、会社を再建させたり、いっそう発展させたりした有言実行、率先垂範の経営者の一人として有名です。

この土光さんが遺した言葉に「穴を深く掘るには幅がいる」があります。これは、どのような意味なのかわかりますか。

たとえば、将来、通訳という職業を目指したとします。通訳は、英語やフランス語、中国語などの外国語が話せる必要があります。でも、それだけでよいのでしょうか。

実際に通訳として働くときには、日本国内を案内するだけでも日本の文化、歴史のみならず、相手の国の文化や歴史もある程度、理解していなければなりません。地理についての知識もなければなりません。お金、つまり相手国の通貨と日本の円との換算もできなければなりません。

また、通訳といっても観光目的だけではないはず。経済・ビジネスや科学あるいは医療関係など幅広く必要とされるはず。そうであるならば、それぞれの分野の知識も持たなければ、大切なことを誤って相手に伝えてしまい大問題につながりかねません。

今、通訳について考えてみましたが、一つの道を極めていくためには、その隣接する分野を含めた幅広い学習が必要になるのです。そして、知識や技能を自分のものにしていかなければならない。これが、土光さんの言葉「穴を深く掘るには幅がいる」ということです。

皆さんは、学校でいろいろな教科の学習をしています。苦手だからといって学習しないと幅は広がりません。人との交流についても同じことがいえます。

中学生時代は、自分の幅を広げる絶好のチャンスです。ぜひ、チャンスを生かして大きく成長してくれることを期待しています。



入学式



4月7日(金)、令和5年度第58回の入学式が行われました。感染症防止対策が緩和される中で、今年度は新入生保護者の参列に制限を設けず、来賓の方をお迎えすることができました。まだ、以前のようにとはいきませんが、少しずつお祝いができるようになってきたことをうれしく思います。206名の新1年生の姿を見て、六中での活躍を期待するとともに、彼らの健やかな成長を願っています。

全校ガイダンス

4月12日に全校ガイダンスを行い、ピカピカの制服に身を包んだ新入生を2・3年生が迎えました。先輩の工夫を凝らした紹介に目を輝かせる1年生でした。部活動に行事に委員会に、積極的に取り組み、充実の3年間にしてください。

仮入部

4月12日の全校ガイダンスを受け、21日まで部活動の仮入部が行われました。期待に胸を膨らませる新入生はもちろんのこと、一生懸命に教える2・3年生の姿が見られ、盛り上がりを見せた1週間となりました。ぜひ3年間、仲間とともに目標に向かって頑張ってください。



4月22日(土) 学校公開を開催しました

4月22日に今年度最初の学校公開を実施しました。当日は多くの保護者の皆様にご来校いただきました。2時間目まで授業を公開し、その後引き渡し訓練を実施いたしました。ご来校誠にありがとうございました。

